

# 雪資源を活用した湯治文化の再構築による地域活性化策

関西大学 社会安全学部

永田ゼミナール（永田尚三）

代表者：不破大晴

発表者：伊木翼、古賀浩徳、菅沼慶香、安井達哉

参加者：赤坂俊彰、川神辰徳、中村葵、中山侑乃

## 概要

現在、津南町は消滅可能性として指定されており、人口減少、過疎化に伴い、経済状況も不安定である。また、豪雪地域であるため、雪による被害が毎年発生しており、雪は厄介者と捉えられている。これらの問題を包括的に解決するために、雪を地域のプラスの地域資源と考え、その「雪資源を活用した湯治文化の再構築による複合的観光事業」を提案したい。

本事業は、わが国伝統の湯治文化と津南町が保有する雪資源を融合させ、津南町の魅力を向上させ、地域の活性化を行おうというものである。現代における湯治文化とは、温泉地に長期間滞留して、温泉の効能による特定の病気の温泉療養を行い、日頃の疲れを癒し、疲労回復などを行ってもらうことである。しかし、江戸時代の湯治は、ただ湯につかって疲労回復してもらうというだけのものではなく、長期滞在中に湯治客を飽きさせない、様々な娯楽コンテンツが用意されていた。また、自炊可能な宿等、湯治客の経済状況に応じた滞在システムも整備されていた。本事業案は、この江戸時代の湯治システムに、津南町が保有する豊富な雪資源を複合させたものである。本事業案では①経済状況に応じた長期宿泊環境の強化、②湯治客を飽きさせない滞在中のコンテンツの強化、③インバウンドに対応した外国人との共生型湯治環境の整備、④事業の持続性を維持するための財政獲得案を4つの大柱とし、それらに沿った事業案を提示したい。

本事業を実現可能とする導入段階的プランも併せて提示したい。段階的プランは第0段階、第1段階、第2段階の3ステップに分かれており、本事業案は中長期的なものとなる。

我々が提案した大元の事業案である湯治は、冬のみならず、通年で湯治客誘致を可能とする事業案である。本事業により津南町が、「消滅可能性都市」から「持続可能性都市」に生まれ変わり、津南町民全員が「みんな雪のおかげ」ということが実感できることを目指す。

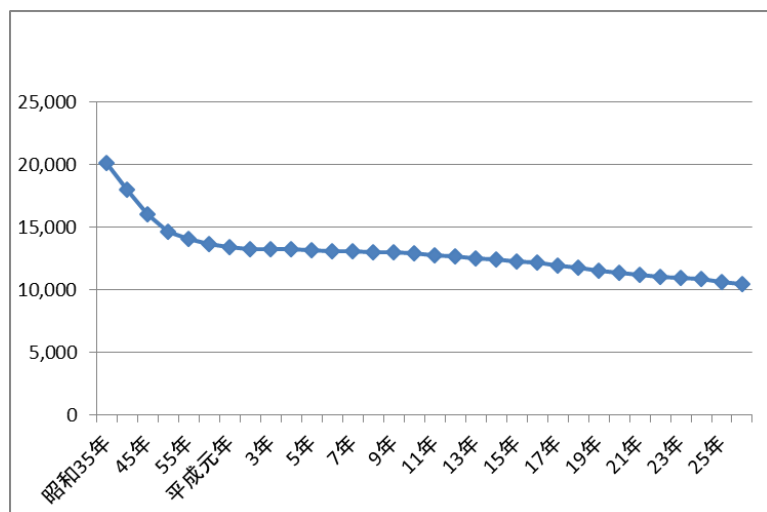
## 1. はじめに

現在、津南町は消滅可能性都市と位置付けられている。消滅可能性都市とは、2040年までに20～39歳の女性人口が半減する自治体のことである。日本創成会議の座長・増田寛也によると、全国約1,800自治体のうち896自治体が消滅可能性都市として挙げられている。(注1)

現在、津南町が抱える問題として挙げられるのが、人口減少・観光客数の減少・豪雪問題である。

人口減少に関して、総人口は、合併当時(1955年)の2万1909人をピークに、その後は減少を続けており、2010年の国勢調査では1万881人となっている(図表1)。また、14歳までの子供、いわゆる年少人口割合が減少し、65歳以上の老人、いわゆる老年人口割合が増加し続けていることから、1985年には老年人口割合が年少人口割合を上回るといった少子高齢化問題も深刻である。更に、2010年から30年間での20～39歳の女性人口の予想減少率は60.3%となっており、人口流出も津南町が抱える問題の一つである。

図表1 津南町の人口の時系列的変化



備考：津南町選挙管理委員会調べ(各年度)より作成

観光客数の減少に関して、1999年度は60万9300人だった観光客数が、2016年度には51万8010人まで減少している。津南町は新潟県南部の魚沼地域及び群馬県、長野県の県境を接する地域において、観光客の来訪及び滞在の促進を目指す雪国観光圏の市町村の一つであるが、雪国観光圏の市町村の中で、栄村に次いで二番目に観光客数が少ないという現状である。

最後に豪雪問題に関して、津南町では雪による人的被害が年に数回報告されており、おもに除雪作業中に発生している。また、降雪被害により、バス・電車の停止運休がなされるケースも多い。よって、津南の住民の間では、雪が厄介なものだという認識が根付いていると考えられる。

これらの問題を包括的に解決するために、雪を地域のプラスの地域資源と考え、その雪資源を活用した湯治文化の再構築による複合的観光事業を提案する。

## 2. 本事業の全体像

## 2.1 湯治文化とは

わが国で湯治文化が花開いたのは、江戸時代のことである。幕府が、物見遊山の旅を禁じ、信仰と療養を目的とした旅のみ庶民に認めたことにより、療養を目的とした湯治文化が全国に根付いた。当時、療養期間は、一廻り（7日）を1クールとして、通常二廻りか三廻りの湯治が一般的であった。また当時の温泉は、宿食分離の宿屋代のみで、後は食品、日用品、生活支援等、個人のニーズや経済状況に合わせ選ぶことが出来るソフトが用意されていた（図表2）。つまり江戸時代の湯治は、各自の経済状況に見合った滞在システムと滞在・療養行為をサポートする体制があっはじめて成立した（注2）。

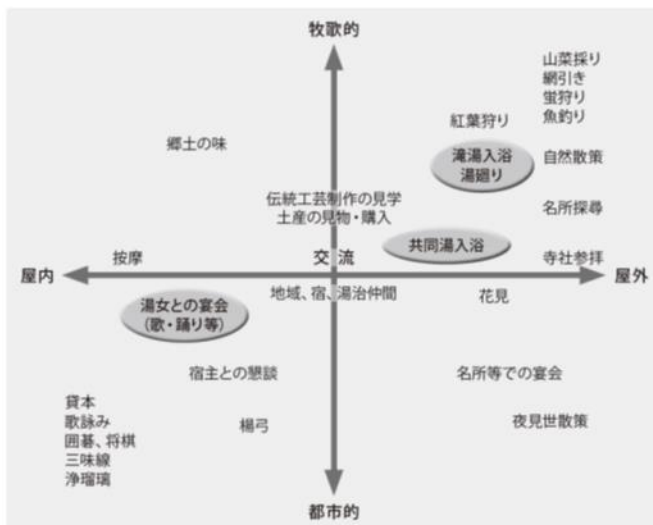
図表2 温泉地における滞在生活の仕組み



出典：内田彩「湯治文化を生かした温泉地づくり」『観光文化 223号』（2014）p33

湯治中は、本人の体力・病状・文化的な能力・経済力に応じて、様々な娯楽が用意されていたが、その中心にあったのが体力的にも経済的にも負担の軽い交流であった（図表3）。そしてそこで構築された仲間意識は、再訪への強い動機となった（注3）。

図表3 温泉地における保養・観光行動

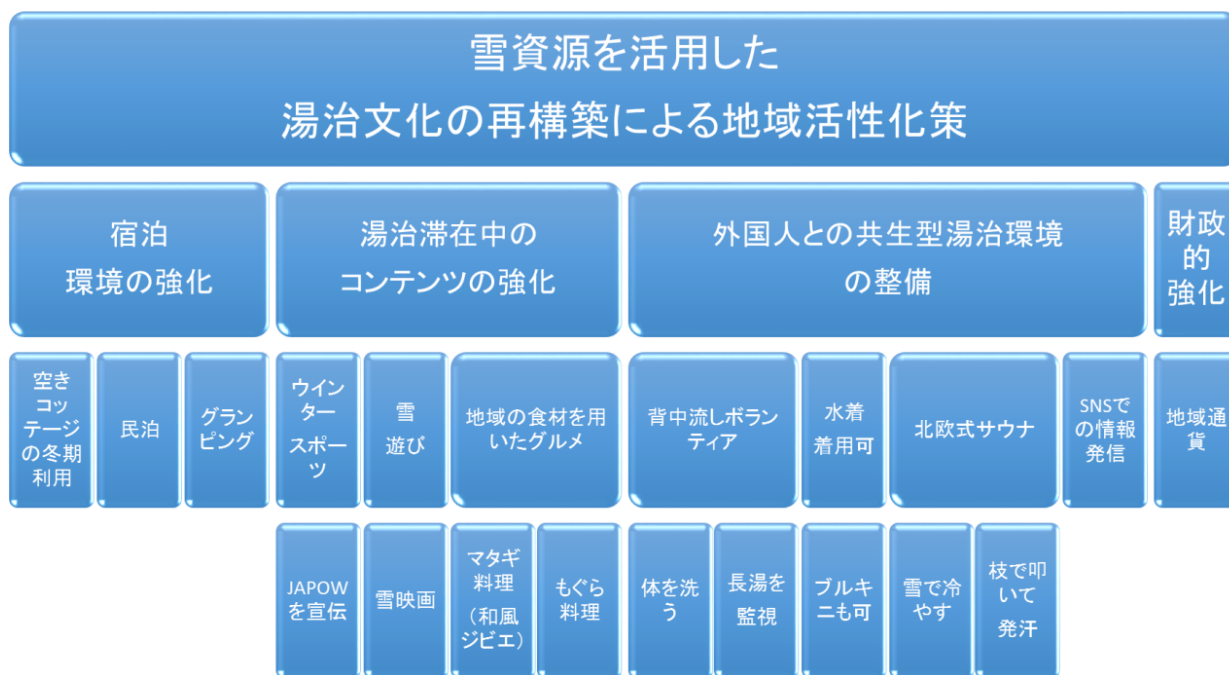


出典：内田彩「湯治文化を生かした温泉地づくり」『観光文化 223号』（2014）p33

## 2.2 本事業の全体像のイメージ

このような湯治文化の理解の上に、関西大学永田ゼミナールが提案する事業案の全体像を、まず示したい（図表 4）。本事業は、わが国伝統の湯治文化と津南町が保有する雪資源を融合させ、津南町の魅力を向上させ、更に地域の活性化を行おうというものである。湯治文化とは、温泉地に長期間滞留して、温泉の効能による特定の病気の温泉療養を行い、日頃の疲れを癒し、疲労回復などを行ってもらうものである。しかし、江戸時代の湯治は、ただ湯につかって疲労回復してもらうというだけのものではなく、長期滞在中に湯治客を飽きさせない、様々な娯楽コンテンツが用意されていた。また、自炊宿等、湯治客の経済状況に応じた滞在システムも整備されていた。本事業案では、この江戸時代の湯治システムに習い、①経済状況に応じた長期宿泊環境の強化、②湯治客を飽きさせない滞在中のコンテンツの強化、③インバウンドに対応した外国人との共生型湯治環境の整備、④事業の持続性を維持するための財政獲得案の4つの大柱に沿った事業案を提示したい。以下で、各大柱について、説明していきたい。

図表 4 本事業案の全体像



## 3. 湯治客の経済状況に応じた長期宿泊環境の強化

### 3.1 自炊可能な宿の確保

まず、本事業を実施する上で、湯治客の経済状況に応じた長期宿泊環境の強化を提案したい。津南町には、ニュー・グリーンピア津南をはじめ、いくつかの宿泊施設がある。更に、今後、大きな流れとして、民泊施設等も現れてくるものと思われる。それに加えて、経済状況に合わせた長期滞在型宿泊施設として、本事業案では、自炊宿の整備を提案したい。宿泊施設としては、冬期

に利用していない、夏のキャンプ用コテージの活用を主に考えている。特に、ニュー・グリーンピア津南のコテージは、電気ガスが通っており、キッチンも付いており、活用可能である。立地も、ニュー・グリーンピア津南の駐車場からすぐすぐである。冬は、雪に埋もれてしまうそうであるが、それは一般住宅も一緒である。そこまでの道の除雪を除雪車が行うことで、十分活用可能である（注4）。まずは、ニュー・グリーンピア津南のコテージから始め、将来的には空き家等に施設を拡大していくことを考えている。

## 3.2 グランピング施設の将来的整備

### 3.2.1 グランピングとは

また、富裕層を対象に、中長期的に整備すべきと考えるのが、グランピング施設である。グランピングとは贅沢を意味する「グラマラス」と「キャンピング」が合わさった造語であり、海外発祥の旅行スタイルであり、京都の南丹・淡路島・三重の伊勢・静岡の伊豆・石川の白山など、現在日本各地でもグランピングは広がってきている。永田ゼミナールでは、津南町におけるグランピングに付加価値を与えるために、日本においてまだ行われていないスイス型のグランピングを提案する。アルプス山中で行われており、かまくらのようなテントを活用した宿泊施設である。保湿性に優れており、換気も行うことができるため、安心して利用することができる。また、建物自体も単に雪を圧雪して作るだけでなく、中に鉄筋を入れることで安全性を確保している。安心・安全に拘りつつも、施設内は快適で、贅沢を体現している。スイスでは予約が1年待ちという現状である。

贅沢なキャンピングであるため、高齢者の方でも苦勞せずにキャンプを行うことができるため、心身の慰勞にもつながると考える。また、スイスのグランピングを、津南町においても体験することが可能になるため、話題性がある。既に、わが国でも、グランピングは若者の間で流行っており、三重の伊勢志摩のエバーグレイズでは7月現在、予約が3か月待ちとなっている（注5）。

### 3.2.2 実現可能性として

津南町におけるグランピングは、スイスのような景観を重視したグランピングの実現が可能なのではないかと考える。雪の残し方として、耐熱シートを使ったり、土に埋めるということを行えば、3～5月にかけての比較的涼しい季節まで、このようなキャンプは可能である。津南町に、日本にはない新しいタイプのグランピングを提供することで、海外だけでなく、国内からの観光客の誘致にも期待ができる。グランピングは贅沢なキャンピングとなるため、1人1人が使う金額も必然的に高くなっていくため、この新しいタイプのグランピングが浸透し、利用が増えれば津南町の経済効果も大きい。

## 4. 湯治客を飽きさせない長期滞在中の娯楽コンテンツの強化

### 4.1 年齢を選ばないウィンタースポーツ

また、本事業案の重要な柱の一つが、湯治客を飽きさせない長期滞在中の娯楽コンテンツの強化である。従来型のスキー、スノーボードといったウィンタースポーツや雪遊びと合わせ、地域

の食材を用いたグルメ、湯治客の健康管理サービス等を提案したい。

まず、若者に人気のあるウィンタースポーツであるが、誰でも出来るスポーツではない。より幅広い年齢層の湯治客に、雪のスポーツを楽しめるコンテンツとして、永田ゼミナールが推奨するのが、「凍みわたり・かんじき（スノーシュー）散歩」である。津南町は、降雪地域という特色を生かし、凍みわたりや、かんじきで雪上歩行する文化がある。凍みわたりというのは、冬場に凍った田んぼを、体を震わせながら歩くというものであり、かんじきというのはスノーシューを履いて、雪の上をスイスイと歩いていくというものである。これらは、子供からお年寄りまで気軽に楽しむことができ、雪の上を歩くため、体の運動になるため、湯治の本来の目的である健康を維持することにもつながると考える。また、真っ白な雪原、ダイヤモンドダストを目で見て、冬の鳥のさえずりなどを耳で聞き、雪が降っていない無雪期には草が茂っていて、普段入っていくことができない場所にも雪さえ積もれば、かんじきでスイスイと入っていくことが可能である。そのため、外国人は雪を体感型で満喫できると考える。このように、津南町のウィンタースポーツに、凍みわたりやかんじき散歩を盛り込むことで、年齢を選ばない雪上での運動を、湯治客に提供可能である。例えば、凍みわたりにおいては、凍った田んぼの上を、体を震わせながら古民家へと1歩1歩向かい、目的地に着いたら、温かい雑炊を食べるといったプランを提示する。かんじきにおいては、かんじきで雪化粧した森のハイキングを楽しむことができるようなプランを提示する。

## 4.2 雪遊び

雪遊びは、従来型のかまくらやそり等の遊びを、子供に提供するというものもあるが、永田ゼミナールでは、津南町における湯治逗留の目玉となる楽しみの一つとして、雪映画上映を提案したい。場所は、津南町内に、複数設置可能であるが、有力な候補地としては、ニュー・グリーンピア津南の駐車場である。ここに雪を積み上げ、雪のスクリーンを設置し、ドライビングシアター形式で、車内からそのスクリーンに映写された映画を観るといったものである。北海道の札幌の雪まつりでは、雪の作品へのプロジェクションマッピングが行われており、技術的には可能である。雪のシーズン常設として、天候の良い夜の湯治客の娯楽として、提案したい。また、ドライブシアターでは、津南特産の食材で作ったB級グルメの販売も可能である。

## 4.3 地域の食材を用いた健康的なグルメ

### 4.3.1 津南のグルメ

食は、江戸時代の湯治から変わらぬ、楽しみの一つである。津南町のご当地グルメや食材として、そば、モグラ鍋、クマ鍋、ジビエ料理、他にも、モクズガニ、雪下アスパラガス、雪下ニンジン等の津南町特有の食材を使った料理が存在する。特に、米は、その豊富な雪解け水を田んぼの灌漑水として用いることができ、夏季は昼夜の温度差が大きく、また稲の登熟期に最適な気温になるため、高品質で上質な米が生産されている。グリーンアース津南の桑原健太郎によって作られたコシヒカリは2001年より5年連続「米・食味分析鑑定コンクール」で入賞しており、津南町の米は全国的にも有名である。さらに、津南町の食材は様々な栄養価があるため、津南町の食材を食べることによって、多様な効果を得ることができる。

永田ゼミナールでは、津南にある食材に更なる付加価値を与えるために「収穫体験」を提案す

る。「収穫体験」とは津南町の特産品である雪下アスパラガス、雪下ニンジン、米などの収穫を実際に行ってもらい、肌で津南町の特産品を味わってもらい、それらを調理したり、雪下アスパラガスや雪下ニンジンなどは収穫したものをお土産として持ち帰ってもらうというものである。また、雪下アスパラガスや雪下ニンジンを収穫する際、雪にも触れあえることができるため、雪という文化を堪能することも可能であり、雪のありがたみというものを感ずることができる。

### 4.3.2 津南の日本酒

また、津南町、新潟県は、日本でも随一の日本酒の酒造好適米、五百万石の産地でもあり、五百万石と名水百選「竜ヶ窪」の水に代表される豪雪津南の雪解け水を使用して作られる津南町の酒は一級品なものばかりである。現在、海外では日本酒ブームが起こっている。国税庁の『酒類の輸出金額・輸出数量の推移について』によると、2015年の日本酒の輸出金額は、約140億円（対前年比121.8%）となり、6年連続で過去最高となっている。このように、海外では日本食ブームとともに日本酒ブームも起こっている。津南町の日本酒も、外国人観光客を呼び込む主要なコンテンツとなりうる。さらに、酒造体験という付加価値を加えることで、津南町でしか味わえない日本酒を体験してもらうことが可能となる。国土交通省観光庁が打ち出す、ニューツーリズムの一つである「酒造ツーリズム」に沿う形で、酒蔵解放や酒蔵体験、などの仕組みを作り、各酒蔵と他の観光資源との連携を目指していけば、日本酒を湯治文化の一つのコンテンツとして、外国人観光客を呼び込むことは、十分可能であると考えられる。

## 5. 外国人との共生型湯治環境の整備

### 5.1 インバウンドへの対応

今日のグローバル社会において、異文化体験を求める外国人観光客が急増している。日本政府観光局の統計によると、2015年の訪日観光客数が1696万9126人であり前年比+56.0%となっている。この外国人観光客の獲得は、津南町にとっても重要な課題である。本事業では、文化の異なる外国人と日本人が互いに共生可能な、共生型湯治環境の整備を提案したい。

### 5.2 背中流しボランティア

津南町には、全国名水百選に選ばれた竜ヶ窪の池の近くにある竜神の館をはじめ、リバーサイド津南、田中温泉しなの荘、逆巻温泉川津屋、クアハウス津南、ニュー・グリーンピア津南、秋山郷萌木の里、かたくりの宿、などの温泉施設がある。また、国道405号と117号沿いに点在する津南町にある温泉は、総称して津南温泉郷と呼ばれており、随所に秘湯が点在している。さらに津南町は様々な泉質があることが特徴であり、多様な効能が期待できる。永田ゼミナールでは、津南の温泉に更なる付加価値を与えるために、「背中流し」を提案する。「背中流し」とは入浴におけるわが国の伝統文化であり、湯治気分を盛り上げるための活動である。わが国において、背中流しを行っていた最後の浴場従業員は東京都荒川区東日暮里にある「斎藤湯」の1人のみであったが、高齢のため2013年12月19日をもって、背中流し業務を、顧客に惜しまれながら終了し、現在、背中流し業務を行う浴場従業員はわが国に存在しない。しかし、東京都江戸川区の銭湯では、都公衆浴場業生活衛生同業組合江戸川支部と区による企画で、敬老の日に地域の児童・

生徒が高齢者の背中を流すボランティアを行っており、高齢者から大きな反響を呼んでいる。

海外には、風呂に浸かるという習慣がない国もある。また、多くの外国人にとっては背中を流してもらう経験がないと言える。さらに、日本人においても、近年は人に背中を流してもらうという機会は少なくなってきた。我々が提案する「背中流し」では、お風呂に浸かる習慣がない外国人や、背中を流してもらった経験のない外国人に、日本の文化を知ってもらい、体験してもらうことができる。背中を流してもらうことによって、肌で日本人の人情を知ってもらうこともでき、日本の文化を体験できるので、外国の人たちには思い出に残るものとなるのではないだろうか。また、背中流しでボランティアメンバーを募るため、外国人の長湯の監視も行うことができるという利点もある。日本人であれば、温泉というものは身近なものであり、自分の限界を知っており、長湯をしてしまい湯あたりすることは滅多にない。しかし、お風呂に浸かる習慣のない外国人にとっては、温泉をどの程度入っていればよいのか、経験的に分からず、長湯により湯あたりするケースがよく見られる。背中流しでボランティアを配置しておくことで、安全面を守り、なおかつ温泉を堪能してもらうことができるようになるのである。さらに、かけ湯をしてから入浴するという、日本人にとってはいわば当たり前となっている文化を知らない外国人と、既存の日本人温泉客との間のトラブルも多発している。背中流しボランティアによって、日本人温泉客とのトラブルも防ぐことができると考えられる。外国人観光客のマナーの問題は、日本のインバウンド政策の一つの課題であるが、温泉事業においては、我々が提案する「背中流し」での解決が期待される。

現在、背中流し業務を実施している浴場従業員はわが国には存在しないため、ボランティアという形態で現代的に再構築し、復活を目指す。この「背中流し」は、2004年の「公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律」の改訂により進められている、健康と入浴をキーワードにした「健康入浴」の普及という流れにも沿ったものである。また、旧来より湯治中の湯治客の娯楽は本人の体力・病状・文化的な能力・経済力に応じて様々な娯楽が用意されていたが、その中心にあったのは現地での体力的にも経済的にも負担の軽い交流であり、なおかつそこで構築された仲間意識により再訪への強い動機となっている。よって、背中流しを行い、湯治客とボランティアの間でコミュニケーションを取り合うことでリピーターの確保につながると期待される。この「背中流しボランティア」は、希望者のボランティアメンバーによって編成する。ボランティアメンバーを集めるために、津南町の社会福祉協議会並びに地域のNPO法人等各事業者と協力し、ボランティア参加者には地域通貨（後述）による給与を支払う。これにより、地域に根差した温泉観光事業が可能となると考えられる。

更に、背中流し大会を定期的に行い、ボランティアの技能向上を目指す。また、津南町の温泉は、泉質が異なり、効能も違う（別図表1）。色々な温泉を体験してもらえよう、温泉手形を販売し、温泉施設間で1日3件（注6）まで、好きな温泉に行けるようにする。また、1日の回数制限解除の温泉手形は、後述の地域通貨でのみしか購入できないようにする。

### 5.3 北歐式サウナ

津南町には、ニュー・グリーンピア津南、クアハウス津南、リバーサイド津南などの温泉施設において、サウナが楽しめる。近年サウナによる健康法が再評価されており、若者間にも広がりを見せている。よって、サウナは新しい湯治文化の重要なコンテンツになりうると思われる。永田ゼミナールでは、津南町にあるサウナに付加価値を与えるために、北歐式のサウナ入浴法を提案する。一般的には、サウナ入浴後、水風呂に浸かり体を冷やす。しかし今回我々が提案する北



欧式サウナ入浴法では、水風呂に浸かる代わりに、雪に飛び込んだり、雪の上で寝転び体を冷やす、また自然の湖に浸かり体を冷やす。サウナの本場フィンランドでは、この入浴法が一般的である。津南町に北欧式サウナを導入すると、冬は雪に寝転び、夏は雪解け水に浸かることで体を冷やすことになる。現在の日本で、生業として北欧式のサウナ入浴法が行われている施設はなく、一部のサウナ愛好家が、個人所有のコテージなどで個人的に行っているのみである。したがって、北欧式サウナ入浴法を体験できるサウナ付き施設が津南町に誕生すれば、おそらく日本で唯一となり、非常に注目されることとなる。サウナ・スパ協会の小林会長の、「北欧式サウナ入浴法が体験できる施設ができれば、サウナ業界の大きな目玉になるだろう。」という発言もある。津南町に北欧式サウナを導入することで、より大きな集客が見込まれるだろう。無論、健康にも良い。サウナ入浴後に、雪の上で寝転がることに関しては、雪の降らない国からの湯治客にとっては、貴重な異文化体験となるだろう。さらに、日本の雪はジャパウと呼ばれるほど上質な雪であり、その雪を直接肌で感じ取れる機会はなかなかないだろう。このことから、津南町に北欧式サウナ入浴法が体験できる施設を導入すれば、世界でも珍しい貴重な体験ができると思われる。更に、サウナ専門誌「Saunner」が3万部を超えているなど、若者の間においてもサウナはブームとなっている。これらのことから、サウナというコンテンツを津南町における湯治文化に盛り込むことで、若者世代を呼び込むことが可能となると言える。既存のサウナ施設を活用する他、露天スペースや近くの空きスペースに、サウナ設備（1セット100万程度からある）を設置すれば、北欧式サウナ施設は増やすことが可能であると考えられる。なお、欧米人は、サウナで他人の汗がつくのを嫌がるので、サウナに自分でしくバスタオルと、体に巻くバスタオルと2枚、外人湯治客には用意する等、細やかな配慮が必要である。

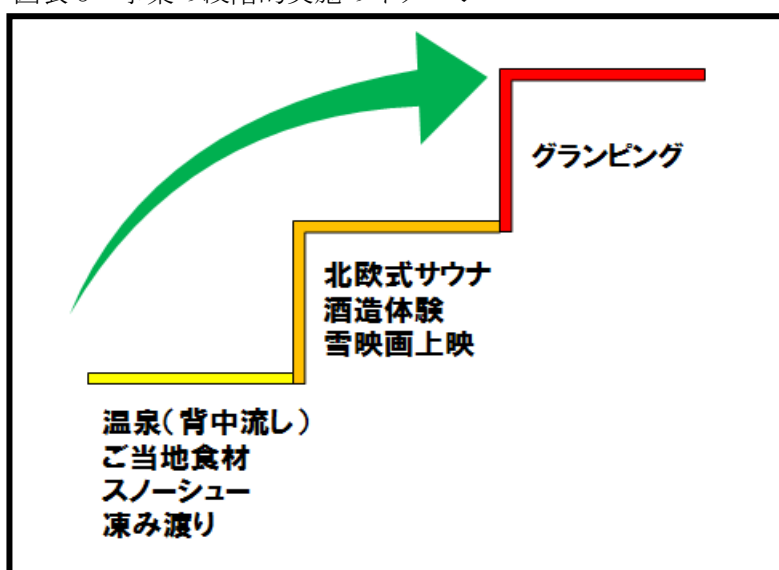
## 6. 事業の持続性を維持するための財政獲得案

津南町を観光したい、と思えるようにするためには観光に来る人たちが来やすい状況を生み出す必要がある。そのための新たなコンテンツとして、「地域通貨」を提案する。地域通貨とは、ある一定の地域でのみ使用できる通貨のことで、オーストリアのヴェルグルで使用された際、当時の危機的財政状況を打破し、大きな波紋を呼んだ。また、日本ではアトム通貨、フェリカなどが存在する。その中でも注目したいものが長崎県で使用されるしまとく通貨である。このしまとく通貨は、県内でのみ使える通貨となっており、こそこの販売方法に注目すべきポイントがある。実際の支払いの20%増しで販売することで、購入者に「お得感」を与えることができる。しまとく通貨は、2015年度より3年間の予定で当初発行された。初年度こそ販売実績は低調であったが、その後順調に実績を伸ばし、その売り上げは約132億円までに上る見通しである。（注7）誘客効果がみられたため、さらに3年間の延長が決定した。また、延長にあたり、電子マネー化されることも発表されている（注8）。このような地域通貨の良い点は、利用者がネット購入をした際に発行することで経費を削減でき、電子マネーであれば発行にかかる経費がほぼかからないため、利益になりやすい。また、津南町でこの地域通貨を利用した際、利用者は法定通貨で購入できる。町は法定通貨を入手することができ、財政が潤う。それを、北欧式サウナやグランピング等への補助金に回すことができ、循環的に経済を回すことができる。さらに、先述の通り、背中流しボランティア参加者には地域通貨で謝礼を支払う。地域通貨は、津南町という限られた地域でしか使用できないため、津南町内で地域通貨を循環させることが可能となる。

## 7. 事業案導入段階的プラン

本事業案を、津南町において、いかにして導入するかであるが、段階的プランを考えている(図表)。地域通貨を除く、6つのコンテンツを導入する時期は大きく分けて、第0段階・第1段階・第2段階の3つの段階に分かれる。第0段階では既存の資源や施設を準用すれば十分実現可能なコンテンツを導入する。温泉(背中流し)、ご当地食材、凍みわたり・スノーシューなどのコンテンツがそれにあたる。次に、第1段階では、多少の設備投資や環境整備が必要ではあるが、近年中に実現可能なコンテンツを導入する。北欧式サウナ、日本酒などのコンテンツがそれにあたる。そして、第2段階では、現在では実現は難しいが、長期的視野で見ると実現可能であるコンテンツを導入する。グランピングなどのコンテンツがそれにあたる。地域通貨の導入に関しては、中長期的視野が必要となる。長い目で協力団体を増やしていき、将来的には雪国観光圏全域で使用可能な地域通貨を目指していく。

図表5 事業の段階的実施のイメージ



## 8. おわりに

今回、永田ゼミナールでは、「雪資源を活用した湯治文化の再構築による複合的観光事業」を提案した。温泉(背中流し)、北欧式サウナ、ご当地食材、日本酒、凍みわたり・スノーシュー、グランピング、地域通貨は、それぞれが独立したコンテンツように思われるが、湯治文化という大きな枠の中で、まとめることが可能である。我々が提案した大元の事業案である湯治は、冬のみならず、通年で湯治客誘致を可能とする事業案である。これにより津南町は、「消滅可能性都市」から「持続可能性都市」に生まれ変わることが可能であろう。さらに、湯治文化におけるどのコンテンツにおいても、津南町の豊富な雪資源を存分に利用することを提案してきた。これにより津南町民全員が「みんな雪のおかげ」ということが実感できることを期待したい。

(別図表 1)

温泉名	泉質	効能
マウンテンパーク津南	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
ニュー・グリーンピア津南	ナトリウム・カルシウム-塩化物泉	きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症
川津屋	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉	きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症
秋山郷 萌木の里	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉	きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症
龍神の湯 鹿渡館	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
辰ノ口温泉 溪泉荘	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
伴茶夢	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
花とほたる湯のさと雪国	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
しなの荘	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
クアハウス津南	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
駅の温泉 リバーサイド津南	単純温泉	自律神経不安定症、不眠症、うつ状態
竜神の館	ナトリウム-塩化物泉	きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚感染症
結東温泉 かたくりの宿	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉	きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

(永田ゼミナール作成)

注1 毎日新聞 2014年5月9日

注2 内田彩「湯治文化を生かした温泉地づくり」『観光文化 223号』(2014) p33

注3 同上

注4 ニュー・グリーンピア津南ヒアリング (2016年9月17日)

注5 方程式から話題の最新サービスを導き出せ 解体!新ジョー式

注6 温泉手形で有名な熊本県の黒川温泉が1日3回限定なのを見安にした。

注7 しまとく通貨販売セット数より算出

注8 朝日新聞 2016年6月13日